

借景芝居

# A面・B面

工藤千夏

この戯曲は、2009年7月に青森県青森市に在った  
「さんふり横丁」という屋台村の「纏」と「あきら」という飲食店に当て書きした借景芝居である。

小路の入り口には屋台村さんふり横丁の看板。「纏」と「あきら」は小路をはさんで斜向かいに建っている。

小路の奥には、ロンシャンという名のいかにも昭和な雰囲気ラブホテルがある。

ねぶた前のこの時期、ねぶた囃子の稽古の音は海風によって聞こえてくる。

この芝居のBGMとして流れるねぶた囃子がリアルなのか、芝居の音響なのかは定かではない。

芝居は、「纏」Ver.と「あきら」Ver.が同時進行する。

出演者は二つの店、つまり、二つの芝居を行き来する。

どちらの店もコの字型のカウンター15席。

俳優が座らない12席を客席として、「纏」か「あきら」のいずれかに観客が座る。

観客にもワンドリンクがふるまわれ、透明人間の客としてその場にいる。

もう片方のセリフも、もれ聞こえる。

もう一つのドラマに興味を持ったなら、次の回で、もう一つの店の客席に座って頂く。

客入れ時間の30分、オリジナルの音楽番組が流れている。

「纏」「あきら」それぞれの店主役の俳優が、観客の飲み物オーダーを聞き、それを出す。

「纏」の鈴木あみが登場したときに座るための椅子には、

観客が座らないよう、常連客の役の俳優が座り、美味しそうに酒を飲んでいる。

ときには、観客と話す。

「あきら」では、葬式帰りの工藤雪子が一人でコップ酒を飲んでいる。

「あきら」の観客はマスターとは話すが、雪子には話しかけづらい。

「纏」の常連客にキューが出る。

二本の芝居が始まる。

常連客は「纏」のママ工藤静香と二言三言交わり、お勘定をして去る。

そして、鈴木あみが「纏」に入ってくる。

## A面・B面 纏バージョン

作 工藤千夏

◎とき2009年7月  
◎場所 青森屋台村さんふり横丁 纏  
◎登場人物  
工藤静香(纏のママ)  
鈴木あみ(東京からやってきた女)  
工藤晃(あきらのマスター)  
工藤雪子(鈴木の下下)  
工藤卓也(鈴木の下下)

カウンターのの中には、工藤静香がいる。ラジオを聞いている。鈴木あみ(明るい色の服)あちこちの店をのぞく。最終的に纏にやってくる。

あみ いいですか？  
静香 いらつしやいませ。どうぞどうぞ。

あみ、隣の人に挨拶しながら席に座る。

あみ 随分混んでるんですね。

静香 こんな明るいうちから、いいのかつて感じですよね、あ、うそうそ。みなさん、どんどん飲んでくださいね。

あみ 屋台村っていうから屋台なのかと思つたら、ちゃんと扉とか柱とかあるんですね。

静香 雪降りますから。

あみ 降るんですか？

静香 降りますよお。

あみ 大変。

静香 あ、今じゃなくて、冬。

あみ あ、そっか。そうですね。

静香 ああ、でもね、今年、お花見のときに……ゴールデン・ウィークに雪降つて、大変だったんですよ。

あみ へえ。さすが青森ね。

静香 でしょお？ なんになさいますか？

あみ なんにしようかしら？

静香 とりあえず、ビールにしますますか？

あみ そうねえ。

静香 今日、暑いですから。

あみ 暑い？

静香 もう、暑くて暑くて。

あみ (笑つて)そうねえ……ビールは東京でも飲めるからなあ。静香 (突き出しを出しながら)どうぞ。東京からいらしたんですか？  
あみ ええ。

静香 暑いですか、やっぱり。

あみ ええ。

静香 東京、最近では熱帯みたいで、人間の住むところじゃないつてテレビでいってましたね。

あみ ああ、大阪は、もっと大変らしいけど。

静香 何、お飲みになりますか？

あみ そうね、どうしようかしら。

静香 あつ！ じゃあ、リンゴジュース。

あみ リンゴジュース？

静香 おいしいですよ、こちらのリンゴジュース、全然違いますよ。濃くつて。リンゴ、ギョつて感じで。うちは屋台だからアレですけど、ちよつとした店だったら、リンゴジュース出るこういう蛇口ありますもん。

あみ ほんとですか？  
静香 ええ、最近のオール電化のマンションは、必ず蛇口ありますね、どのチラシ見ても。

あみ ホントに？

静香 ホントですつて。温泉行けば、リンゴ風呂あるし。やつぱり、青森来たら、リンゴジュース飲まなくつちや。

あみ じゃ、頂こうかしら。

静香 はい。

静香、リンゴジュースを用意し始める。

静香 観光ですか？

あみ ええ、まあ。

静香 惜しかったですね。ねぶた、来週なんですよ。

あみ ああ、そうなんだ。

静香 もうちよつとだけ遅く来れば良かったのに。

あみ そうね。

静香 (ジュースを出す)どうぞ。

あみ ありがとう。(ジュースを飲む)ほんと、ギョつて感じ。

静香 でしょお！

あみ おいしい……。

問。

あみ あの、

静香 はい。

あみ ここ、さんふり横丁っていうんですね。

静香 はい。

あみ さんふりつて地名か何か？

静香 よくぞ聞いてくれましたたつて感じですね。あのですね、津軽の人の特性っていうか、氣質が三つあるんですよつて。まず、「えふり」。「えふり」は、「えふりこぎ」っていうのがあつて。

あみ えふり？ こぎ？

静香 いいふり？ する、みたいな？ あの、関西弁で言うところの、ええかつこしいみたいな感じですよ。

あみ ああ。

静香 あと、あるふり。これは、お金があるふり。

## A面・B面 あきらバージョン

作 工藤千夏

◎とき2009年7月  
◎場所 青森屋台村さんふり横丁 あきら  
◎登場人物  
工藤晃(あきらのマスター)  
工藤雪子(鈴木の下下)  
工藤卓也(鈴木の下下)  
工藤静香(纏のママ)  
鈴木あみ(東京からやってきた女)

晃のカウンター。葬式帰りの工藤雪子(喪服)が一人でコップ酒を飲んでいる。カウンターの中には工藤晃がいて、つまみの仕込みをしている。鈴木あみ(明るい色の服)あちこちの店をのぞく。しかし、あきらには入らず、纏に入る。

雪子 晃さん、おかわり。

晃 ……。

雪子 晃さくん。おかわり！ お願いします。

晃、コップに酒をつぐ。雪子、勢いよく飲む。

晃 明るいうちに飲むお酒つて、回るの速いよ。

雪子 酔つてないもん。

晃 そういうこと言つてる人に限つて、けつこう酔っぱらつてるもんだよ。

雪子 酔いたいんですけどね、ほんとに、酔わないんだつて、今日は。

晃 ……なんぼであつたけ？ 鈴木さん。

雪子 四十二。

晃 若いなあ。

雪子 若いと早いですよ、進行するの。

晃 最初入院したの、年末？

雪子 一月の末。頭痛い、風邪治らなつて会社ですつとしゃべつて、年明けたら病院につてたんですけど、なんかズルズルしちゃつて。行つたら、即、入院ですよ。

晃 ああ。

雪子 四月に退院したんですけどね、結局、六月にまた県病戻つて……肺がんで、自分で病院行つたときには、大概転移しててですつて。

晃 ふーん。最後にここ来たの、ゴールデン・ウィークであつたけ？

雪子 ええ、あの、雪ふつたとき。

晃 ワシワシつて寒くて、なあ。

雪子 あのと、二人で合浦公園の観桜会行つて、それからここ来たんですよ。寒かつたけど、桜咲いてるとこに雪降つてき

れいで……。  
晃 雪ちゃん一人で、ずつと看病してあつたんですよ？

雪子 ま、一応。

晃 なかなか、できることでないよ。奥さんでもないのに……ま、おつかれさま。

雪子 ……終わらないことつてないんですよね。

工藤卓也(喪服)、店に入ってくる。

卓也 いた、いた。(晃に)★あ、どうも。

雪子 ★遅い！

晃 どうも。

卓也、雪子の隣に座る。

雪子 随分遅かつたね。

卓也 雪子さん、早過ぎですよ。最後のお焼香、いなかつたでしょ。

雪子 いられないつて、あんなと。

卓也 総務部の人たち、探してましたよ。

雪子 なんて？

卓也 お骨のこと、相談したいつて。

雪子 今さら……。

卓也 ま、そうですね。

晃 あの……おめでどう。つていうのもアレなだけで。

卓也 ああ、どうも。

晃 先月であつたけ？

卓也 はい。ま、ジュニアライド、みたいな感じで。

晃 式、たいしたおつきがたつて。

卓也 いえいえ。

雪子 いいですよ、こんなときに、そんな話。

晃 ま、それはそれ、これはこれだから。

雪子 だいたい、なんで見舞いに来ないのさ。

卓也 行こう行こうつて思つてたんですけど。式の準備とかいろいろあつて。

雪子 ホント、冷たいよなあ。

卓也 でも、雪子さんのおかげで、鈴木さんにも来てもらえて、ホントに良かったです。その節は、大変な時期にどうもありがとうございました。

雪子 なんも食べれない人からも会費しっかり取るんだもんなあ。

卓也 すみません。ま、お香典で相殺つてことで。

晃 奥さんも工藤さんなんだつて？

雪子 工藤家・工藤家二両家。孔雀の間に、何人工藤いたんだろうね。

卓也 しょうがないじゃないですか。好きになつた人がたまたま工藤だつただから。

雪子 奥さんいいよね、出戻つてもわかんなくて。私も工藤さん探そつかなあ。

晃 せば、わでもない？

雪子 晃さん、奥さんいるでしょ。

あみ ああ。  
静香 最後が、おべだふり。覚えたふりで、知ったかぶりのこと。初めて聞くことでも、ああ、それね、知ってる知ってる、みたいなの。  
あみ ああ。  
静香 そうやって聞くと、なんか、津軽の人つてもものすごい見栄っ張りみたいですよ。  
あみ ええ。  
静香 でもね、ほんとは……やっぱり見栄っ張りなんですよ、実際。こんなこと言うと、怒られちゃうんですけど。私、津軽じゃないんで。  
あみ どちらなんですか？  
静香 下北です。  
あみ シモキタ。  
静香 わかります？ 下北半島の下北。川内つてとこなんですけど、この辺。

静香、**ジエスチャー**で青森県と下北、川内を表現する。

あみ ああ、お猿さんのいるところ。北限の猿でしたっけ？  
静香 ええ。お猿さんはこの辺。  
あみ (お猿さんのポーズだと誤解して) ああ。  
静香 はい。  
あみ いいわね、ふるさとのある方つて。  
静香 お生まれも東京なんですか？  
あみ ええ、町田つていうところ。知ってる？  
静香 聞いたこと、あります、知り合いが、確か、そこに住んでたとかつて。  
あみ お知り合い？  
静香 ええ、こっちに赴任してらした方なんですけど。  
あみ そう……あの、こちらの、地酒みたいなの、あるかしら？  
静香 ありますよ。  
あみ 有名なの、なんでしたっけ？ 田んぼのお酒つていうやつ。  
静香 ああ、デンシユですね。ごめんなさい、あれ、うち置いてないんですよ。  
あみ そう。  
静香 如空(じよくう)つていうの、あるんですけど、それも、結構おいしいですよ。  
あみ ジョクウ？  
静香 空の如し。  
あみ じゃ、それ、お願いします。  
静香 はい。

静香、コップをあみの前に置き、日本酒を注ぐ。

静香 (注ぎながら) 如空つて、ちようと前に名前変わったんですよ。前は……あれ、なんだつたっけ。忘れちゃった。(他の客に) なんてしたっけ？

問。(あるいは反応を受ける)

静香 建物とかも、更地になつてると、いつも前通つてたのに、前なんの建物だったか思い出せないこととかありません？ 人つて、いろいろ忘れるから生きていけるんでしょうけど……どうぞ。  
あみ ありがとう。工藤さん。  
静香 え！  
あみ 工藤さん？  
静香 なんで、私の名前知ってるんですか？  
あみ (笑つて) やだ、ほんとに、工藤さんなの？  
静香 ……はい。  
あみ 工藤静香さんだったりして。  
静香 ……はい。  
あみ (大ウケして) わーっ！ やだ、ほんとに、ほんとに工藤静香さん？ 信じらんない。  
静香 お客さん、占い師かなにかですか？  
あみ (まだ笑いながら) お友達に言われたのね、こっちの人はほとんど工藤さんだから、青森に来たら実験してみなさいつて。  
静香 でも、名前……。  
あみ ああ、それは、私知ってる工藤さんつて、工藤静香と、工藤夕貴と、工藤スケツネだけだから。あと、工藤兄弟？ あ、工藤兄弟は名前じゃないか。  
静香 びっくりしました。  
あみ 青森には、工藤静香さん、いっぱいいるのかしら？  
静香 さあ、私は会ったことないですけどね。  
あみ ああ、じゃ、世界で二人だけ？  
静香 あつちは、もう、木村さんですか。  
あみ ああ。(一口飲んで) おいしい。  
静香 何か、召し上がりますか？  
あみ 青森らしいものがないなあ。  
静香 青森らしいもの、なんだろう……ホヤとかナマコとか。  
あみ それつて、生もの？  
静香 はい。  
あみ ああ、そういうのじゃない方がいいかな。  
静香 あー。  
あみ ザツバジル？  
静香 じゃつば汁？  
あみ それかな？  
静香 ごめんなさい、うちの店にはないですよ。  
あみ じゃ、ケノシルつてある？  
静香 ケノシルもないです。  
あみ ……そう。なんか、お友達が、味噌味のミネストローネみたいでおいしくて話してくれて。  
静香 お友達、イタリア人なんですか？  
あみ イタリア系日本人。チョイワルなの。  
静香 (笑つて) ああ。知ってます、私も、そういう人。あの、さんふりつて、他の店から出前取れるんですよ。聞いてみましょうか。  
あみ 出前、面白いわねえ。

晃 いだっけか。(晃になに飲む？  
卓也 ウーロン茶。  
雪子 えーっ！  
卓也 えーつて、★なんですか？  
雪子 ★飲まない訳？  
卓也 だつて／  
雪子 鈴木さんの葬式だよ。飲まないで帰るつて、どういう根性よ、それ。  
晃 新妻、待つてるもの。  
卓也 いや、その、車／  
雪子 すぐそこに、代行してるでしょ。  
卓也 あー、なるほどお。

晃、黙つて、卓也の分もコップに酒を注ぎ、出す。

卓也 あ、じゃ、頂きます。(元氣よく) 献杯！

雪子、卓也をにらむ。

雪子 あんた、うれしいの？  
卓也 まさか。  
雪子 やめなさいよ、その新婚顔。  
卓也 最初からこういう顔でしょ、やつあたりですよ。  
晃 ま、もめないで。あんたたちモメたら、鈴木さん浮かばれないでしょ。三人して、青森のドリカムだつたっけ？  
雪子 青森のTide。  
卓也 イーエルティにしとけば良かったですね。(ちよつと歌う)

しらけた間。

晃 珍田のホールだっけ？  
卓也 ええ。  
晃 っぽい来てた？  
卓也 いや、なんか、カサラつてましたよ。  
雪子 ま、鈴木さん、こっちの人じゃないですからね。  
晃 東京？  
雪子 町田。  
卓也 ああ、あの辺ね。  
晃 わかるの？  
卓也 わかんない。  
雪子 もう。  
卓也 町田つて、東京なんだ。  
晃 神奈川でないの？  
雪子 東京ですよ、ぎりぎり。  
卓也 ですよ。  
晃 喪主の人とか、わざわざ来たんだよね？  
卓也 いや、誰も来なかつたんですよ。  
晃 え？  
卓也 ま、社葬だから、本社のエラい人ちよろつと来てましたけど。

晃 そう……、だいたい、なんでこつちでやったの？ 普通、赴任の人、こつちでやらないでしょ。ましてや、社葬は。  
雪子 ……遺言あつたんですよ。  
晃 遺言？  
雪子 手帳に「私が死んだら、骨は青森の海に散骨して欲しいつて書いてあつて……」。  
晃 ふーん。したけど、なんで、奥さん来なかつたの？  
卓也 それは、鈴木さん、実は独身だつたんですよ。  
晃 離婚してたの？  
卓也 ええ。  
晃 だつて、単身赴任つてしゃべつてなかつた？  
卓也 ボクたちもそう思つてたんですよけど、  
晃 子供はいないつてたんだよね？  
雪子 ……ええ。  
晃 ま、確かに、鈴木さん、家族の話とかしなかつたけどね。  
卓也 しかもね、書類いろいろ必要になつて、今回初めてわかつたんですよ、鈴木さん、住民表だけでなくて、本籍から何から全部こちに移してるんですよ。  
晃 なんて？ 本籍まで移す必要ないでしょ。  
卓也 意味わかんないですよな。

問。

晃 あのさ、散骨つて、普通にやつちやつていいものなの？  
卓也 なんか、ヤバそうでしょ？  
晃 不法投棄とかになるんでないの？  
雪子 結論としては、禁止する法律つてないんです。  
晃 そうなの？  
雪子 「死者を弔う目的で、相当の方法で行われるのであれば、刑法190条の死体損壊罪の遺骨遺棄には当たらない。」  
晃 へえ。  
雪子 北海道に、条例で禁止してる地域があるんですけど、青森はそんなことないし。  
晃 なるほどね。  
雪子 海はね、「海洋葬」つていつてわりかし一般的なんですよ。石原裕次郎とかもそうだつたし。  
晃 そつか。  
卓也 荒井注もなんですよつて。  
晃 へえ。  
卓也 仮面ライダーの死神博士も。  
晃 ……。  
卓也 死神博士じゃなくて、死神博士やつてた人ね。  
晃 ああ。でも、遺族はうちのお墓に……とか、言い出すんでないの？  
卓也 そんなですよな。でも、見つからないんですよ、**イ、ゾ、**



あみ いいの？  
静香 見せびらかしたいんです。ラブラブだから。

携帯の写真をあみに見せる。

静香 かつこいいでしょ？ 拓哉っていうんです。

あみ いくつ？

静香 この前のお誕生日で四歳になりました。

あみ 静香と拓哉だ。

静香 狙ってつけましたから。

あみ そうなんだ。

静香 一人で産んで、一人で育てるって決めましたからね、名前

ぐらい、好きなつけないと。

あみ 特権ね。

静香 はい。男の子って、面白いですよ。こんなちっちゃいうちから男なんですよ。「しーちゃん泣かせるやつは、僕がなぐつてあげる」って。あ、ママとかじゃなくて、しーちゃんって呼ばせてるんですけど。それが、自分が叱られて、しーちゃんって呼ばせてきに、そういうこと言うんですよ。凄いでしょ。

あみ お父さん欲しいって言わない？

静香 言いませんよ。そういう風にしてますから。

あみ ああ。

静香 遊んでくれるおじちゃん、誰がいいかってオーディションやつて、全部だめとか言ってますね。

あみ すごい。

静香 はい。

あみ いいわね、お子さんがいるって。

静香 はい、私、拓哉いないとがんばれないですもん。

静香、携帯をしまう。

あみ (並んでいる大皿を指して)これ、頂いていい？  
静香 はい。

静香、卵焼きを皿に盛り、あみに出す。お箸をとって食べようとするあみ。

静香 あ、お醤油、どうぞ。お好みですけど。

あみ ああ、お醤油かけるんだ。

静香 はい。

あみ、醤油をかけて卵焼きを食べる。

あみ おいしい。私、卵焼きにお醤油かけるの、初めて。

静香 東京ではかけないんですってね。鈴木さんも……あ、鈴木

木さんっていうんですけど、その亡くなられた方も、初めてだつておっしゃってました。

あみ ……そう。

あみ、卵焼きを食べる。

あみ おいしい。

問。

あみ どんな方だったの？ その、鈴木さんって。

静香 そうですね、おつきい人。

あみ ああ。

静香 ひよろつとおつきくて、ここに座るときとか、なんか、こー、手足たたくで、収納してからちよこんつて感じで。ま、店が狭いんですけど。

あみ ああ。

静香 ちよつと変わってる方でしたね。鈴木さん、変な賭け好きなんですよ。

あみ 賭け？

静香 去年の秋、その席に座って飲んでるときに、「静香ちゃん、明日雪降るかどうか賭けよう」って。体育の日の連休のとき。まだ、紅葉で。例年、十一月入ってからなんですよ、初雪降るの。

あみ ええ。

静香 「俺は、降る方に賭ける。降らせてみせる」ってしゃべって。

あみ なに、賭けたの？

静香 秘密です。

あみ 教えてよ。

静香 ふふふ……ファースト・キス。

あみ あらあ。

静香 鈴木さんが勝ったら、そのロンシャンまで行ってキスする。私が勝ったら、キスしない。

あみ ロンシャンって？

静香 この奥、まっすぐ歩いて行つたと、ラブホなんですよ。青森に昔つからある老舗の。なんか、ここで飲んで、勢いつけてから行くお客さんもいるんですよ。

あみ へえ。

静香 あきらのマスターなんか、店閉めるの遅くなって、帰るの面倒なときは一人でも泊まるって。

あみ 一人でもいいの？

静香 なんか、ロンシャンは人数制限ないんですって。

あみ へえ。で、どうなったの？

静香 はい？

あみ 賭け。

静香 負けました、私。

あみ 雪、降つたんだ。

静香 はい。……八甲田に。

あみ まあ。

静香 八甲田山は、例年そのぐらいに降るんですよ。

あみ ずるいなあ。

静香 ほんと、ずるいですよね。

あみ で、行つたの？ ロンシャンに。

静香 はい、約束ですから。

あみ あらあ。

しゃべつたか覚えてます？

晃 もちろん。「A、B、Cなんてつけて、AさんBさんと呼ぶなんてむちゃだよ。青森の人は、AさんとEさんの区別がないんだから」ってね。

笑う晃と雪子。卓也、纏を気にして落ち着かない。

晃 あの客、二度と来ないよ。

雪子 そりゃそうでしょ。

やはり、落ち着かない卓也。問。

雪子 どしたのさ？

卓也 いえ……。

雪子 なんかしした？

卓也 なんでもないです。

問。

晃 鈴木さんさ、初めてここに来たとき、そこさ座つてさ、「そうですか、ここはさんぷりですか。えふり、あるふり、おべだふり、なるほど。じゃ、三内霊園っていうのは、飲まない、打たない、買わない、煩惱一切なしの三ない霊園な訳ですな」って。ねえ

卓也 へえ。

晃 タツくん、いなかつたけ？

卓也 あれ、どうだったけ？

雪子 あんた、覚えてないの？

卓也 だつて、鈴木さん初めて来たときつたら、もう五年も前でしたよ？

晃 そうなるか。

卓也 だつて、鈴木さん赴任してきたの、僕、会社に入った次の年ですもん。

晃 長かったの。普通、二、三年でしょ？

雪子 こつちにいたいって、希望出してみたいで……ほら、新幹線がらみのプロジェクトとかもあつて。

晃 ああ。

卓也 鈴木さんの歓迎会の二次会？

雪子 うん。

卓也 ああ、思い出した。あのときはいっぱい、僕、あつち(纏)行つたんですよ。

晃 そうか。

雪子 あのときね、桜の話になつて、三内の桜、今咲いてるかどうか賭けるって聞かなくて、タクシー飛ばして三内まで行つたのさ。

卓也 夜中にそんなことしてたんですか？

雪子 十一時ぐらいかな？ タクシーの運転手さんもいやがつてさ、おつかないって。結局、国道からがーつて行つた入り口のことまでしか、行けなかつただけだね。

卓也 四月の頭に咲いてる訳ないじゃないですかね。

雪子 そう。東京と違うんですって、いくらしゃべつても聞かなくて。

卓也 わざと負けたかつたんじゃないんですか？

雪子 そつかな？

卓也 鈴木さんって、ちよつとそういうところあつたじゃないですか。

雪子 そうお？

卓也 何賭けたんですか？

雪子 そのときのタクシー代と……なんだつたかな。

卓也 君のハートとか言わないでくださいよ。

雪子 ……忘れちゃつた。

晃 (笑いながら)教えてあげよつか。

卓也 えー、やめてくださいよ。

雪子 なんですか？

卓也 ★きゃー、やめてえ。

晃 ★ファーストキス。

卓也 なにそれ。

雪子 鈴木さんが勝つたら、ロンシャンまで行ってキスする。私が勝つたら、しない。

卓也 わー、大人つて汚い！

雪子 なんにもなかつたもの、私勝つたんだから。

卓也 ほんとですか？

雪子 ほんとだつて。

卓也 ふーん。

雪子 だいたい、あんただつてあたしとロンシャン行つたじゃない。

晃 なに、それ？

卓也 やだなあ、そういう誤解を招く言い方。二人で行つた訳じゃないじゃないですか。

晃 おだやかでないね。

雪子 (纏を指して)あつちで飲んでるとき？ こいつ、タクシーにも乗れないくらい酔つぱらつちやつて、鈴木さんと、纏のママと三人で、ロンシャンまで運んだんですよ。纏のママは帰つちやつて、そしたら、フロントの人、三人で二部屋でいって言い出して。

晃 あそこ人数制限ないのさ。ワも一人で泊まったことあるよ。

卓也 そうなんだ。

晃 良心的だんだおん。そういうの良心的っていうのかな……朝、目覚ましたら、いきなり天井に鏡あつて、その辺のソファに雪子さん寝てて。雪子 タツくん、起きたとき、鈴木さん、お風呂に入ってたんだよね。腰にタオル巻いて、おはよーって鈴木さん出てきたときの、こいつの顔！(笑う)

卓也 だつて、びつくりするでしょ。あ、そうだ、あれ、僕一人で全部払わされたんですよ。

雪子 だつて、あんた、一人でがーんつてベッド占領してたじゃない。

卓也 でも／

雪子 鈴木さんと私は、一晩中、タツくん介抱してたんですから

静香 でも、したのはキスだけです。約束ですから。  
あみ なんか、ヴェイスの商人みたいな話ね。  
静香 鈴木さんも同じこと言っていました。  
あみ もつとエッチなだけやれとかも言っただんじやないの？  
静香 お客さん、やだあ。(笑って)なんで、わかるんですか。  
あみ なんかもう、鈴木さんのことは、全部わかるような気がする。  
静香 ……なんか、こうやってしゃべっていると、「どーも」って入ってきそうですよ。

貝焼き味噌を運んで、卓也がやつてくる。

卓也 どーも。  
静香 あらら。  
卓也 まいどつーあきらです。(あみに)どーも。  
あみ どーも。  
静香 あ、ここに。  
卓也、あみの前に貝焼き味噌を置く。  
卓也 あちち、ですから。  
あみ ありがとう。  
卓也 七百円でーす。  
あみ ああ、ちよつと待つてね。

あみ、財布を取り出して、お金を用意する。

静香 ちゃんと、教えてよ。  
卓也 ごめん。  
静香 全然、知らなかった。  
卓也 急だつたから。  
静香 困るんだよね。  
卓也 ごめん。  
静香 何が困るって訳でもないけどさ……やつぱり、人としてどうかなって感じになるじゃない。  
卓也 ……ごめん。

あみ、卓也に七百円渡す。

あみ はい、ちよつど。  
卓也 まいどあり。あの……。  
あみ はい？  
卓也 (居ずまいを正して)どこかでお会いしてませんか？  
静香 なに、くどいてんの？  
卓也 そういうんじゃないの？  
あみ 青森の方って意外にイタリア系なのね。(口食べて)おいしい！  
静香 そうですか、良かった。  
卓也 ……じゃ。  
静香 飲んでいかないの？  
卓也 ……(席を見回す)。

ね。  
卓也 ……記憶ないですから。  
雪子 いい？ みんな誤解してるけど、私と鈴木さんは、別にそういう関係じゃなかったんですからね。  
卓也 いやあ……。  
晃 ま、いいじゃない。その辺は、墓の中まで持つてくつてこと……あ、鈴木さん、墓ないのか……。  
間。

卓也 あの、言おうかどうか迷つてたんですけど、その……さつきそこで電話してた人、(纏を指して)あの人、たしか葬式に来てましたよ。  
雪子 え、ほんとに？  
卓也 たぶん。  
雪子 ほんとにが？  
卓也 ……着てるもの違うから、自信ないんですけど。  
雪子 ……。  
卓也 たぶん。  
雪子 ……。  
卓也 鈴木さんに関係ある人ですかね……。

雪子、立ち上がる。

卓也 え？  
雪子 ちよつと、行つてくる。  
卓也 え、え？  
雪子 聞いてくる。  
卓也 でも……。  
雪子 だつて、来てたんでしょ、葬式。関係あるに決まつてるじゃない。  
卓也 ああ、来てたかな？ どうかな。どうだろ。うーん。  
雪子 どつちさ。  
卓也 いや、確証はなにもない訳で。やつぱり違うんじゃないかな。なんか、違う気がしてきました。  
雪子 なんて、止めたいのさ。違つてたら、ごめんなさいって謝ればいいだけでしょ？  
卓也 だつて……ほんとに、別れた奥さんとかだったら、雪子さん、いやでしょ？  
雪子 どういう意味さ。  
卓也 だつて、ここまでやつたんだから、最後の散骨まで、雪子さん、自分でやつてあげたいでしょ。  
雪子 そんなことないよ。  
卓也 でも、  
雪子 あんたの優しさつて、ホントに中途半端だよ。そう思うんだつたら、しゃべんなきゃいいじゃない。  
貝焼き味噌が出来上がる。  
晃 ちよつと行つてくるから。

卓也 あ、僕、行つてきますよ。  
晃 いいの？  
卓也 はい。(雪子に)だから、さりげなく聞いてきますよ。  
晃 熱いから気つけて。

卓也、貝焼き味噌を持つて纏に移動する。

晃 七百円だから。  
卓也 はいはい。  
晃 (雪子に)飲むが。

晃、雪子に酒を注ぐ。

雪子 すみません。晃さんも飲みませんか？  
晃 なんだな、飲んじゃおうかな。

晃、グラスを二つだし、酒を注ぐ。

晃 (卓也のいた席にグラスを置いて)これは、鈴木さんの分の献杯。  
雪子 献杯。

晃、雪子、しんみりと飲む。

雪子 鈴木さんつて、他の女のひとここ来たことあります？  
晃 ないんでないかな？  
雪子 そう。  
晃 あんなに毎日雪ちゃんたちと飲んでて、どこにそういう暇あつたの？  
雪子 そつか。  
晃 ♪俺にはお前が最後の女♪  
雪子 やめてくださいよ。

晃、鼻歌に切り替え、やがてやめる。間。

雪子 私、籍入れておつびらに看病したいから、奥さんと別れてくださいつて頼んだんです。そしたら、だめだつて。  
晃 ……鈴木さんはさ、雪ちゃんのこと大事だつたんだよ。自分がいなくなるつてわかつてきて、男は結婚はできないよ。  
雪子 違うんですよ。鈴木さん、奥さんのこと、ずつと憶つてたんですよ。  
晃 そうかなあ。  
雪子 だつて、とつくに別れてたんですよ。結婚しようと思えば、いつでも出来たんですよ……わかりますよ、そういうの……。

雪子 合浦公園歩いて、海の方まで行つて、ほんとに寒くて、そしたら、「今度雪降るときまで生きてられるかなあ」つて言うんですよ。鈴木さん、なにしゃべつてるんですか。治りますよ。治しましょうよ。今度雪降つたら、スキーでもスノボでもなん

静香 立ち飲みでもいいじゃない？  
卓也 えーつ。  
静香 流行ってるんでしょ、東京で。ねっ？（卓也の意向も聞かず）いつものでいいよね？  
卓也 う、うん。

困ったような顔であみを見る卓也。あみ。貝焼き味噌を食べる。

あみ（卓也に微笑んで）おいしい。  
卓也 あ、良かったです。  
あみ 工藤さん、なんですよ。  
卓也 え？  
あみ 工藤静香さんにお聞きして。青森ってほんとうに工藤さん多いのね。  
卓也 ああ。工藤卓也です。よろしくお願いします。  
あみ あら、タクヤさんっていうんだ。  
卓也 はい。  
あみ タクヤと静香だ。  
卓也 ええ、まあ……。  
静香（立っている卓也にグラスを渡す）はい。  
卓也 どーも。

卓也、受け取って飲む。

あみ それ、おいしいですよ。  
卓也 飲みました？  
あみ ええ。  
卓也 好きなんですよ、ギョウて感じで。こっちではね、産湯、みんな、リンゴジュースですから。  
あみ ほんとに？  
卓也 どこうちにもリンゴジュース出る蛇口あつて、水道局の中に、リンゴジュース課ってセクションありますもん。  
あみ（笑って）ああ。  
卓也 やつぱり、青森来たらリンゴジュース飲まないと。あの、東京からですか？  
あみ ええ。  
卓也 飛行機でいらしたんですか？  
あみ ええ。  
卓也 来るとき、飛行機の中でリンゴジュース飲みました？  
あみ ううん、飲まなかった。  
卓也 良かったです、LTCで使ってるリンゴジュース、青森のリンゴジュースじゃないんですよ。青森空港発着なんだから、青森産のリンゴジュースにすればいいと思うんですけどね、違うんですよ、で、飲むとがっかりしちゃうんですよ、ギョウてしてなくて。  
あみ ああ。  
卓也 帰り、飲んじゃだめですよ。もう、舌肥えちゃってますから。  
あみ はい。……あの、せつかく持って来て頂いてあれなんだけ

ど、私、ちよつと向こうに行つてみてでもいいかしら？ トレード？（卓也に）ねっ。

卓也 ああ、  
あみ おいくら？  
静香 あ、じゃ、二千円で。  
あみ（お金を渡す）ごちそうさま。  
静香 ありがとうございます。

あみ、移動しようとする。

卓也 あの……観光でいらしてるんですか？  
あみ ええ。  
卓也 そうですか……。  
あみ それが何か？  
卓也 いえ、なんか、青森県人としてご紹介するべきスポットとかないかつて。どういうところ、行つてみたいですか？  
あみ そうね……ロンシャン。  
卓也 ロンシャン……。  
あみ いらしたことがある？  
卓也 まさか。  
あみ ないの？  
卓也 いや、その……。  
あみ いい所なんですつてね。じゃ。

あみ、あきらに移動する。見送る静香と卓也。

卓也 ……。  
静香 座れば？  
卓也 あ、ああ、うん。

卓也、あみが座っていた席に座る。  
静香 ちよつと太つた？  
静香、あみの飲み物を下げる。

卓也 いや、そんなことはないんだけど、そうかな？  
静香 太つたよ。  
卓也 ……拓哉、元気？  
静香 うん。おじちゃん、来ないのつて言わなくなつた。  
卓也 うん。……おにいちゃんだつて。

静香、自分の分もリンゴジュースを持って出てくる。

静香（乾杯の手つきで）久しぶり。  
卓也 久しぶり。

カウンター越しにグラスを合わせる静香と卓也。

静香 聞いたよ。盛大だつたつて。

でもやりましようよ。私、こゝろ見えて、スキ一の指導員の資格持つてるんですよ、青森の人は、小学校の体育でもスキーありますからね、高校までずっと必修ですからね。私、体育だけは、十段階評定でずっと十だったんですよ。ピシピン鍛えてあげますから。……鈴木さん、笑つて、じゃ、「今度雪降るときまで生きてたら、結婚しよう。雪が僕のプロポーズだよ」つて。晃 そっか。  
雪子 もう一日ぐらい降らないかなつて思つたんですけどね。  
晃 良かったじゃない、雪降つてたら、今頃未亡人だよ。  
雪子、ちよつと笑う。

晃 あのさ、知り合いの漁師さん、紹介してあげるよ。もうじつちやだけど、いつでも舟出してくれるから。

雪子 舟？

晃 散骨、海に撒くんじゃよ？その方がいいでしょ、海に降る雪みたいで。

雪子 お願しようかな……。

晃 うん、いつでも。

あみ、入つてくる。

あみ いいかしら？ トレード。

晃 あ、どうぞ、どうぞ。

あみ 構わない？

雪子 どうぞ。

あみ ありがとうございます。

雪子 え！

あみ（晃を指し）工藤あきらさん。（雪子を指し）工藤ユキさん。……（纏を指して）工藤静香さんに聞いたの。

晃 なんだ。

あみ（笑いながら）お友達に言われて、あつちのお店で実験したのね、青森の人はほとんど工藤さんだから、とにかく隣にいる人「工藤さん」つて呼んでみなさいつて。そしたら、ママが、工藤静香さんで、青森には、工藤ユキさん、いっぱいいるのかしら？  
雪子 けつこう、いると思いますよ。字はあれですけどユキコなら三人ぐらい知ってますね。

あみ 多そうね。工藤さんのユキコは、どんな字お書きになるの？

雪子 雪です、スノー。

あみ ああ。キレイ。

雪子 お名前、なんておっしゃるんですか？

あみ 平凡な名前なの。

雪子 工藤だつて、ちよー平凡ですよ。

あみ 東京だと珍しいんだけどね、工藤さん。

雪子 あらためまして、（おしぎして）工藤雪子です。

卓也 いや、そうでもなかった。  
静香 そうなの？  
卓也 うん。どちらかといえば、カサラツとしてた。  
静香 ふーん。  
卓也 ま、こちの人じゃないからね。  
静香 そうなの？  
卓也 ……うん。  
静香 ふーん。  
卓也 あれ、知らなかった？  
静香 知る訳ないじゃない。  
卓也 ……(？)そう。  
静香 ……(？)この人？  
卓也 ……東京……町田。  
静香 ……  
卓也 知ってた？ 町田つて、東京なんだつて。  
静香 知ってた。  
卓也 そう。  
静香 別に呼べとは言わないけどさ。教えてくれてもいいんじゃない？  
卓也 ごめん。取引先の人とかには、ファックスしたんだけど。  
静香 ファックス？  
卓也 通夜と告別式の連絡。  
静香 ……ま、いいんだけさ。  
卓也 あのさ、さっきの人と何しゃべってたの？  
静香 なんだ？  
卓也 いや、今日、葬式に来てたと思うんだよね、あの人。  
静香 だつて、あの、鈴木さんの別れた奥さんでしょ？  
卓也 聞いてたの？ 鈴木さん、離婚してたこと。  
静香 うん。  
卓也 なんだ？ 会社にも、つていうか、俺にも、雪子さんにもしゃべってなかったのに。  
静香 こういう場所の方がしゃべりやすいんでないの？  
卓也 ふーん。  
静香 気楽なもの。  
卓也 ……鈴木さんつて、一人でもここに来てたの？  
静香 たまにね。あきらに入れないときとか？  
卓也 ……そう。

問。

静香 なんか不思議な人だつたよね。一回さ、別の赴任のお客さんがね、青森は、新幹線なんか通さないで、究極のエコライフやればいいんだつて言い出したことあつて。それなら、「不便がいつていうのは、人ごとだから言えることだ」つて、けんかして。

卓也 へえ、けんかなんかするんだ。いつも冷めてます、俺クルですつて感じだつじゃん。  
静香 そうお？ 私お礼言つたのね、「ありがとうございます、鈴木さん、青森好きなんですわ」つて。それなら、「いや別に、僕は偶然ここに来だけですから。どちらかと言えば青森嫌い

かなあ」つて。で、そのあと、青森の悪口止まらなくて。  
卓也 ああ。青森の人は排他的だとか、結局田舎者なんだとか、そういうのでしょ。  
静香 ま、そんな感じ。  
卓也 東京生まれつて、そんなに偉いのかな。  
静香 そんな風に思つてなかったよ、鈴木さんは。  
卓也 肩持つんだ。  
静香 肩持つても、何もさ……もう、いないんだから。  
卓也 ……  
静香 あのさ、タツくん、ほんとにもうここに来ないつもりだつたの？  
卓也 だつて……  
静香 私、なんも気にしてないよ。  
卓也 ……  
静香 私たち、結婚する訳じゃないんだからさ、タツくん結婚しても関係ないじゃない。  
卓也 だつて、式あげて、まだ……  
静香 じゃ、雪降つたら、また来るとか。  
卓也 鈴木さんみたいなこと言つて……  
静香 いいじゃない。鈴木さん方式。約束。今度雪降つたら、また……ねっ。

静香に言われて指切りをする卓也。

卓也 うん。

晃、やつてきて、卓也の後ろに立つ。

晃 お、新婚、早くも浮気かあ？  
卓也 いえ、そんな……

あわてて指切りをやめる卓也。

静香 あれ、晃さん、どしたの？  
晃 大丈夫？ さっき、ショックだつたらうと思つてさ。ちょっと、様子見に来たの。

静香 ああ、心配かけてすみません。

晃 病院行つてなかったの？  
静香 ほら、(あきらを指して)彼女、ずっと看病するようになってから、行けば悪いかなつて思つて。

晃 ああ。  
静香 電話はもらつたりしてただけど、六月の頭ぐらいまでは。

晃 そのあと、なんか、もう意識あんまりなかったみたいだからね。

静香 そうなんだろうなつて思つてました。

晃 葬式のこと、教えれば良かったなごめんね。

静香 いえ、いいんですよ。おんなじですよ、行つても行かなくて。そ？

あみ (おじぎを返して)鈴木です。  
雪子 鈴木さん……  
あみ 鈴木京香です。  
晃 鈴木京香さん？  
あみ 嘘よ。  
晃 なんだ。  
あみ 言つてみたかつたの。ほんとには、鈴木蘭々です。  
晃 ……面白い方ですね。ま、青森の酒つこどうぞ。

晃、あみに酒を出す。

晃 どうぞ。  
あみ ああ、すみません。

問。

晃 雪ちゃん、ごめん。

雪子 はい。  
晃 ちょっとローソンに買い物に行つてくるから、ちよつとの間、頼む。

雪子 あ、はい。  
晃 悪いね。  
晃、店から出て行こうとする。

あみ あの、  
晃 はい。  
あみ ありがとうございます。  
晃 いえ。

あみ、立ち上がつて深々とおじぎをする。晃も深々とおじぎを返す。晃、出ていく。あみ、座る。

雪子 あの、失礼ですけど、今日、お葬式、いらしてましたよね？

あみ ええ、  
雪子 ……鈴木さんつて、鈴木さんのご家族の方ですよ？

あみ いいえ。  
雪子 奥さんじゃないんですか？

あみ 違いますよ。  
雪子 ★でも、

あみ ★工藤さん、お経の途中でいなくなつちやつたでしょ。見てました。

雪子 なんか、ちよつと……  
あみ いい写真だつたわね、今にも話しかけてきそう。

雪子 ええ。  
工藤さんがお撮りになつたの？

あみ まさか。あの、ホントに奥さんじゃないんですか？

あみ ええ、今はもう違うわ。  
雪子 いつ、離婚したんですか？

あみ いつだつていいじゃない。そんなの。鈴木はもう死んじゃつ

たんだから。  
雪子 ……いつ、結婚したんですか？

あみ 尋問みたい。

雪子 そういつつもりじゃ……  
あみ いいわよ。私たちは、大学時代のサークルで知り合いました。卒業して、二十五のときに結婚しました。三十五で別居して、離婚したのは三十八のとき。

雪子 ……なんのサークルですか？

あみ ヨット部。

雪子 ヨット。  
あみ 鈴木くん、海が好きだつたの。

雪子 ああ。  
あみ 初めて会つてから二十五年、二十六年？ おそろしいわね。

雪子 うらやましいです。  
あみ そうお？ 早く会えばいいつてもんじゃないでしょ。

雪子 そうでしょうかね。  
あみ 先着順とかじゃないもの。

問。

あみ 彼、工藤さんには、結婚しようつて言わなかつた？

雪子 奥さんいるからつて。  
あみ 嘘つきね。

雪子 ……  
あみ そういう人なの。

雪子 私、看病とかしてましたけど、別につきあつてた訳じゃないんですよ。私が一方的に好きで、大好きで……鈴木さん、ホントは、迷惑だつたかもしれませぬ。

あみ 感謝してるわよ。

雪子 ……  
あみ 工藤さんつて、おいくつ？

雪子 三十一です。  
あみ 若いわね。

雪子 若いわね。  
あみ 若いくないです。

雪子 若いわよ。結婚とか、まだ大事でしょ？  
あみ ラッキーかもよ、この後、鈴木と関わらなくてもよくなつたのは。自分のことだけ向いてくれる人と一緒にいるのつて、楽よ。

雪子 あの、鈴木さんのご親戚とかご存知ですよ？連絡先。

あみ どうかしら。  
雪子 お骨、どうするか、会社でも決めかねてて……連絡先とか、わかれば。

あみ どうかな、近い身内はいないし、遠縁の方だつて、困るでしょうね、いきなりお骨だけよこされても。

雪子 鈴木さん、散骨希望されてるんですよ。遺言あつて、青森の海に撒いて欲しいつて。

あみ そう。いいんじゃない？  
雪子 はい？

静香 二回目の入院のとき、私的には、もう遠くに行っちゃって感じてしまったから。  
晃 んだが。拓哉くんも、あんなになつてたのね。  
静香 最近、言わなくなりましたよ、おじちゃん来ないのつて。  
晃 そつか。なんか、察してらんだらうね、子供にも。  
静香 晃さん、お店大丈夫なんですか？  
晃 ま、ここにいれば見えるし、ちよつと、あの二人、こみいった話してからさ。  
静香 鈴木さんて、欲張りだね。あんな素敵な人いたのに、まだ、別の人に甘えたかつたんだね。  
卓也 ……なんなのよ。  
静香 え？  
卓也 なによ、それ、どういうことよ。  
晃 どした？  
卓也 俺、バカみたいじゃん。悪いことしちゃつたつて、結婚式のときも、静香ちゃんのこと考えててさ。新婚旅行で飛行機に乗るときも、あ、この飛行機のおもちゃ、拓哉におみやげにしたら喜ぶかなつて、買わなかつたけどさ。  
静香 タツくん……。  
卓也 だいたい、鈴木さんつて、どーよ。死んだ人のこと、悪く言いたくないけど、俺、どうも信用できないつて思つてたんだよ。独身だつて嘘つくんならわかるけどさ、結婚してる、単身赴任だつて部下まで騙すのつて、なんなのよ。あつちこつちで、変な賭けして、女くどいてさ、やりたい放題やつて死んじやつて、あんな何様のつもりだよ。反論あるなら、化けて出て来いよ。俺、面と向かつて、あんななんか嫌いだつて言つてやるよ。

卓也、店を出ていく。

静香 タツくん。

卓也を追いかける静香。

静香 あきらさん、ちよつとお願い。

あきら、困惑して立ちすくむ。あきららの前にいる雪子とあみの台詞が聞こえてくる。

雪が降り始める。見えない場所で話していた静香と卓也が戻ってくる。空を見上げる静香、卓也、あきら、あみ、雪子。ねぶた囃子が大きくなる。

了

あみ 彼が希望してるんなら、そうしてあげたら。  
雪子 誰がやるんですか？  
あみ あなたがやればいいじゃない。してあげたいんですよ？  
雪子 ……。  
あみ 喜ぶわよ、彼も。  
雪子 あなたがやるべきじゃないんですか？  
あみ どうして？  
雪子 だつて、奥さんだつたんだから。  
あみ 今は違うわ。  
雪子 だつて/  
あみ 今はもう、同じでしょ？ あなたも、私も。  
雪子 ……。  
あみ 鈴木くん決めてもらいましょうか？  
雪子 え？  
あみ 今日、雪が降つたら散骨する。降らなかつたら、しない。  
雪子 降る訳ないじゃないですか。  
あみ 降らないかな？ 雪子さんの雪。  
雪子 ……。  
あみ ……お勘定おいくらかしら？ (見回す)  
雪子 別にいいんじゃないですか？  
あみ あ、あきらさん、あつちにいる。(立ち上がる)お元気でね。

あみ、帰ろうとする。立ち上がる雪子。

雪子 鈴木さん。  
あみ はい？  
雪子 何しに来たんですか？  
あみ え？  
雪子 わざわざ青森くんだりまで、何しに来たのかつて聞いてるんですよ。  
あみ リンゴジュース飲みにな。  
雪子 なに、さつきから余裕かましてんですか？ 鈴木さん、死んじやつたんですよ。もういないんですよ。お葬式に出たらそれでいいんですか？ 入院したの、知つてたんですよ？ なんで、逢いに来てあげなかつたんですか？ 鈴木さん、待つてたんですよ。病室の窓から、海見て、ずつとあなたが来るの待つてたんですよ。  
あみ 私じゃないと思うな。私ね、再婚するの。鈴木くんにメールで知らせたら、返事が来て「おめでどう、お祝いに青森の雪を見せてあげましょう、すべてをすつぱり包み込む雪は、白無垢みたいで本当キレイです。」ああ、約束したのになあ、結婚する前に、雪、見せてくれるつて。  
雪子 ……いつ、結婚されるんですか？  
あみ 来週。  
雪子 それは…おめでどうございます、  
あみ ありがとうございます…鈴木くん、誰のこと、待つてたのかしらね。  
雪子 ……。  
あみ お元気で。

雪が降り始める。空を見上げるあみ、雪子。晃、静香、卓也も空を見上げている。ねぶた囃子が大きくなる。

了